

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 新宿区立西戸山小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

所在地 〒169-0073
新宿区百人町4-2-1

E-mail ntoyamasho@city.shinjuku.lg.jp

Website <http://www.shinjuku.ed.jp/es-nishitoyama/index.html>

児童数 男子 236 名 女子 243 名 合計 479 名
児童の年齢 6 歳～ 12 歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校では、本年度主に以下の活動を行った。

- ・『ユネスコ週間』を設けて、ユネスコの理念普及と国際文化理解学習、人権学習及び、募金活動の実施。
- ・国際理解学習を「総合的な学習の時間」に位置付ける。
- ・ユネスコの取り組みを児童会活動に常時活動として位置付け（ユネスコ委員会）、児童がユネスコ週間の運営をする。年間3回児童集会で発表し、ユネスコについての理解を深め、ボランティア意識等の啓発を図る。
- ・ユニセフ募金をユネスコ委員会を中心として行う。
- ・エコキャップ回収を呼びかけ、業者に回収をしてもらう。
- ・NPO法人「チームくじら号」を講師として迎え、環境学習教室を開催する。
- ・各学年の取組
 - 1～2年生…生活科等で、伝統文化や環境について学習する。
 - 3～6年生…総合的な学習の時間等を使って、国際理解・人権福祉・環境学習について学習する。

以上の活動を年間で行ってきた。以下に、特に力を入れて取り組んだ3点について記述する。

①環境、地域の伝統文化に関する学習

本校では、本年度 ESD パスポートを使用したボランティアについて、自主・自律的に活動する児童の育成を目指して取り組んできた。

4年生以上は日本ユネスコ協会発行の ESD パスポートを、3年生以下は新宿ユネスコ協会発行の ESD パスポートをもち、自主的に活動を行えるようにした。

年度の初め、ユネスコ委員会の児童が地域協働会議に参加し町内会と連携・相談して、地域でボランティア活動のできる場を作っていたり、紹介していただいたりし、身近な場所でボランティアができるようにした。具体的には、清掃活動や植物への水遣り・草取り活動、地域の文化祭の運営等である。ユネスコ委員会では年間を通して、いつどんなボランティアができるかを全校に知らせる活動を行ってきた。全校朝会や放送での呼びかけ、ポスター等の掲示を行うことで、全校で約80名ほどの参加者をだすことができた。

②国際理解に関する学習

第6学年では、ゲストティーチャーや交流相手を招き、国際理解を深める学習を行った。具体的には、リトアニア合唱団との交流、東京国際大学附属日本語学校の留学生との交流、茶道体験等である。交流を通して、他国の文化を知るだけでなく、自国の文化についても調べて紹介することで、文化の違いやそれぞれのよさについて体験的に学ぶことができた。

③人権・平和、貧困に関する学習

1月にはユネスコ週間を行い、ユネスコ委員会を中心として児童の意識啓発を図った。初日のユネスコ集会では、ユニセフについての発表を行い、「心の中に平和の砦を築く」というユネスコの精神を伝え、募金の呼びかけを行った。各学級でもユニセフについてや世界の貧困についての話を担任からすることで、募金活動では多くの児童が募金に参加することができた。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 異文化を理解し、共生しようとする態度等)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

- ・ 1月に『ユネスコ週間』を設けて、ユネスコの理念普及と環境学習及び、ユネスコおよびユニセフ募金活動を実施する。
- ・ 国際理解学習を「総合的な学習の時間」に位置付ける。
- ・ ユネスコの取り組みを児童会活動に常時活動として位置付け（ユネスコ委員会）、児童がユネスコ週間の運営をする。また、ユネスコやユニセフ、ボランティアを促す内容を各学期1回（年3回）のユネスコ集会でユネスコ委員会が発表する。
- ・ エコキャップ回収を呼びかけ、業者に回収をしてもらう。

以上の活動を教育課程に位置付け、担当同士で連携しながら活動を推進している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、

児童会活動に常時活動としてユネスコ委員会を位置付け、児童自身が発信していける環境を築いている。本年度は、ボランティア活動の発信、エコキャップ回収、ユネスコ週間の運営、ユニセフ募金等を児童主体として行った。

また、地域協働学校運営協議会との連携を図り、地域で児童が主体的に活動できる場を提供していただき、校内で発信したり、校内での取組の様子を交流したりしてきた。

どのような取組を行っているか。（200字程度）

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

年度末に学校評価を行い、ユネスコスクールとしての活動の評価を校内で行った。その中では、「ESD パスポートのボランティア活動が地域主体で進められるよう、十分な働きかけを行っている」との評価を受けている。

また、地域協働学校運営協議会等で学校関係者評価を実施し、地域でのボランティアの活動について、今まで以上に児童の地域への参画が増えており、地域と学校との距離が近くなったと肯定的な評価をいただいている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

地域協働学校運営協議会を通して、ユネスコスクールとしての活動を地域に発信してきた。また、校内のユネスコ週間での発表や、新宿区で行われた環境学習発表会での児童の発表に、地域の方が来場して発表を見たりすることで、校内の活動を地域等に発信することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

新宿区ユネスコ協会と連携し、情報の共有や交流を行ってきた。特に、ボランティア活動に当たっては、低学年用に新宿区独自のESDパスポートを作成していただいたり、30ボランの途中経過で15ボランを達成した児童に対して新宿区ユネスコ発表会で表彰していただいたりした。

また地域町内会と地域での活動情報を共有したり、校内で発信したりし、連携を深めてきた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)
※チェック事項2-4に対応

ユネスコのホームページを閲覧したり、配信されるEメールを確認したりし、他校の活動情報を参考にしている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

ボランティア活動について、ユネスコ委員会が校内で発信することにより、地域での児童の活動が大きく増加し、地域と学校との関係がよりよい方向へ向かっている。また、児童が活動したことを表彰等で価値付けることで、次の活動に向けての意欲付けにもなり、ボランティア活動のよいサイクルが生まれている。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・『ユネスコ週間』を設けて、ユネスコの理念普及と国際文化理解学習、人権学習及び、募金活動の実施。
- ・国際理解学習を「総合的な学習の時間」に位置付ける。
- ・ユネスコの取り組みを児童会活動に常時活動として位置付け（ユネスコ委員会）、児童がユネスコ週間の運営をする。年間3回児童集会で発表し、ユネスコについての理解を深め、ボランティア意識等の啓発を図る。
- ・ユニセフ募金をユネスコ委員会を中心として行う。
- ・エコキャップ回収を呼びかけ、業者に回収をしてもらう。
- ・各学年の取組
 - 1～2年生…生活科等で、伝統文化や環境について学習する。
 - 3～6年生…総合的な学習の時間等を使って、国際理解・人権福祉・環境学習について学習する。